

第1問

(i) 出題意図

本問題は、日本語の運用能力（読解力・表現力）に加え、国際学部アドミッション・ポリシーで求められている「社会の諸問題について、根拠に基づいて筋道を立てて考え、自分の意見をまとめる」能力を測るためのものである。また、課題文の主題である民族紛争は、現在の国際社会における重要かつ複雑な問題の一つである。その現状を把握するだけでなく、原因についても思索を深めることのできる学生は、国際学部において様々な専門的課題に積極的に取り組むことのできる意欲があると考えられる。

(ii) 解答（または解答例）

問1

- (1) 下線部 (a) の「ふとした」の用法に注意し、この語が含まれる短文を作りなさい。(5点)

解答例：私はふとしたことからその子と親友になった。

- (2) 下線部 (c) の「言い回し」の用法に注意し、この語が含まれる短文を作りなさい。(5点)

解答例：彼は独特の言い回しを使う。

問2

下線部 (b) 「どうして彼らは虐殺に走ったのか」と同じ趣旨の疑問を繰り返している箇所はどこですか。本文から10字以内で抜き出さなさい。(10点)

解答：何が安定を崩したのか (10字)

問3

下線部 (d) 「精神の空洞」を埋めたのではないかと推測されるものは何ですか。本文から 20 字以内で抜き出さない。(10 点)

解答: 「偉大なロシア」を奉じるナショナリズム (19 字)

問 4

下線部 (e) 「私たちは、油断をしていたのかも知れない」とは具体的にどのような意味か。本文にそくして 200 字以内で記述しなさい。(20 点)

解答例: 冷戦が終わり、ベルリンの壁が崩壊したのを目撃して、私たちは自由と民主主義が勝利を収めたと考えた。しかし実際にはユーゴスラビアやナゴルノ・カラバフでソ連時代に大きな問題もなく暮らしていた民族が対立し、いまロシアはウクライナに侵攻している。これらはどれも、社会主義の理念への信頼が失われ、精神に空洞が生じたところを民族ナショナリズムが埋めたのを、私たちが油断して見逃したのが原因かもしれない。(194 字)

第 2 問

(i) 出題意図

本問題は、日本語の運用能力(読解力・表現力)に加え、国際学部アドミッション・ポリシーで求められている「社会の諸問題について、根拠に基づいて筋道を立てて考え、自分の意見をまとめる」能力を測るためのものである。また、課題文の主題である外国人の労働問題は、持続可能な国際社会や地域社会の実現のために避けて通れない問題であり、その実態を把握したうえで、それを多角的に考え、その解決方法についても思索できる学生は、国際学部の専門分野に積極的に取り組む意欲があると考えられる。

(ii) 解答例

問1

下線部 (a) の「外国人」という属性によって差別を受けている」とはどのようなことですか。本文の内容をふまえて、自分の言葉で85字以内で説明しなさい。(15点)

解答例：就職や雇用において能力が評価されず、「外国人」であるという、語学力を身につけるなどの努力をしても本人には変えられない特徴だけの理由で均等に扱われていないこと。(81字)

問2

日本社会における移民や外国人の状況を左右する要因は何であり、その境遇がよくなるには、何が変わらなければいけないと思いますか。本文の内容をふまえて、300字以内で具体的に書きなさい。(35点)

解答例：日本社会において移民や外国人が経験する困難の背景には、少なくとも二つの側面、つまり入管や雇用に関わる制度の問題と外国人への偏見という意識の問題がある。入管制度に関しては、在留資格の種類によって職種変更や転職ができない仕組みを変える必要があるだろう。雇用制度については、間接雇用を特徴付ける劣悪な労働条件の改善が求められている。これは移民・外国人だけの問題ではないが、彼らの間で間接雇用の割合がきわめて高い。また、このように多くの移民・外国人が弱い立場に置かれた背景には就職・雇用差別もあるので、教育やメディアや司法などを通じて、民族や国籍を理由として人を軽蔑し、差別する意識を変えなければならない。(299字)